



ZERO CARBON CITY TOKOROZAWA



マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）
2022年10月23日

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える



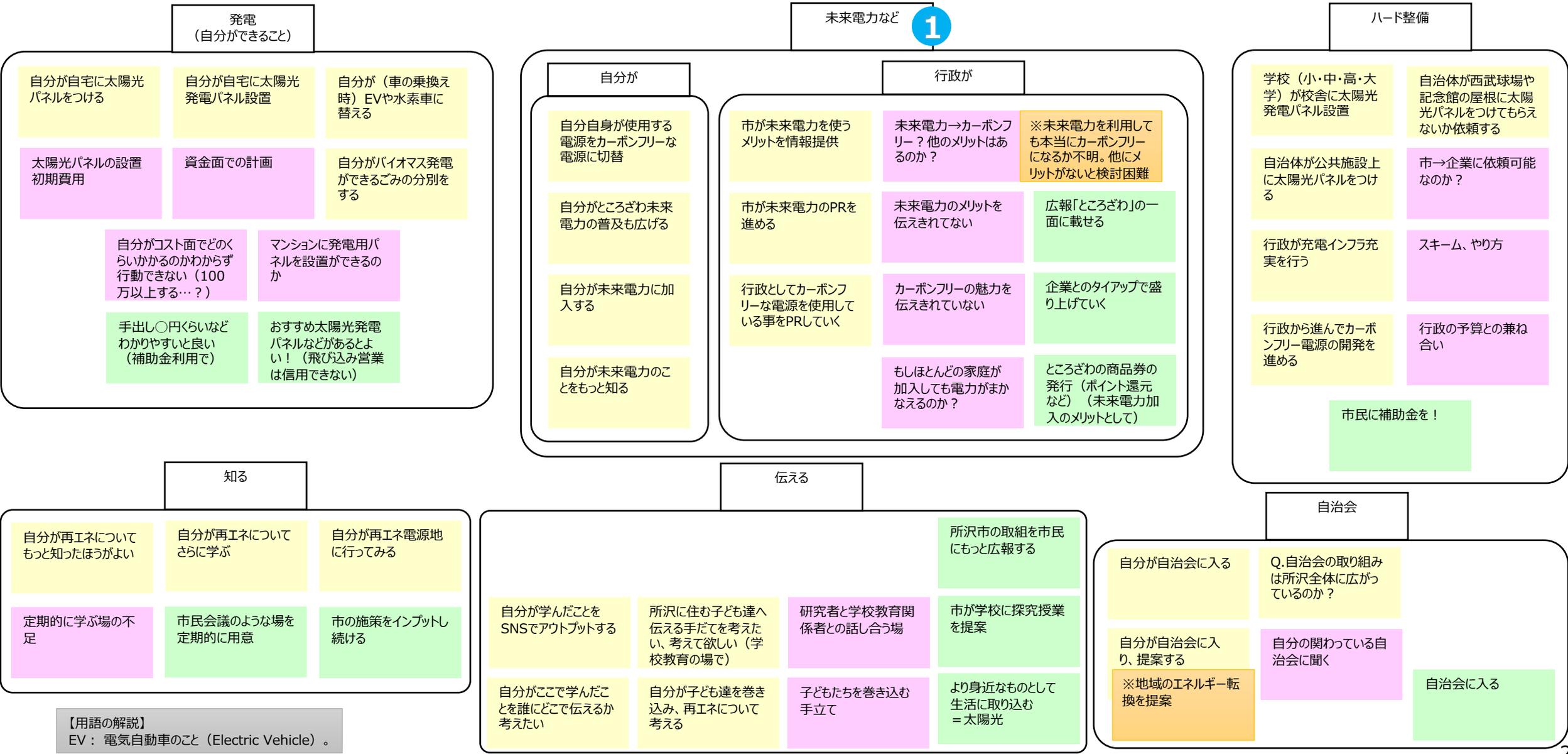
グループワーク
結果の説明

- ※ 黄色のポストイットは「取り組んだ方が良いこと」を書いたものです
- ※ 桃色のポストイットは「取り組むにあたっての課題」を書いたものです
- ※ 緑色のポストイットは「課題への方法（対策）」を書いたものです
- ※ 柿色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたものです
- ※ 水色の番号①は、グループがイチオシする「課題への方法（対策）」です。

まちごとゼロカーボン市民会議（第3回）

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

グループ1

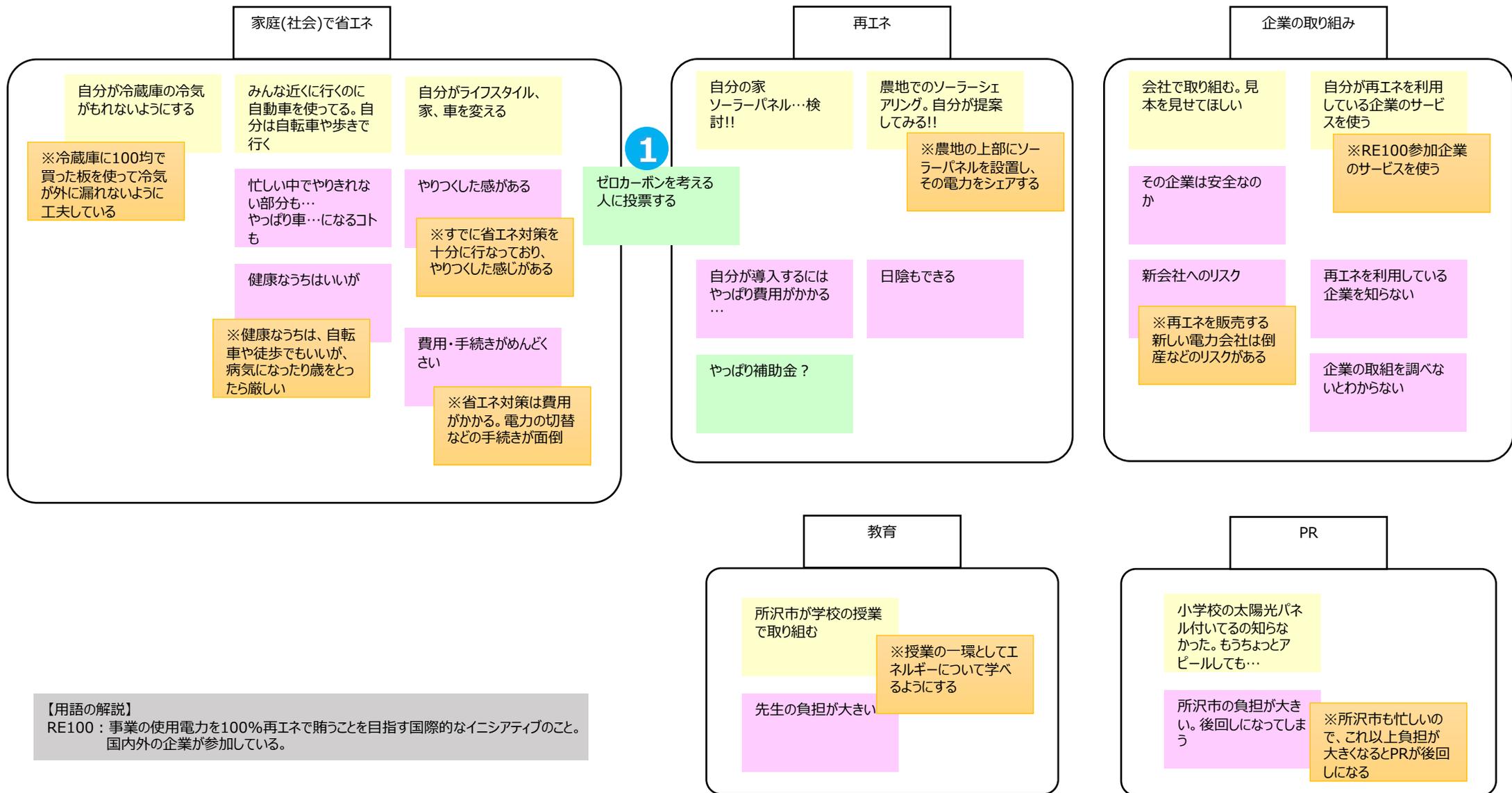


【用語の解説】
EV：電気自動車のこと（Electric Vehicle）。

マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

グループ2

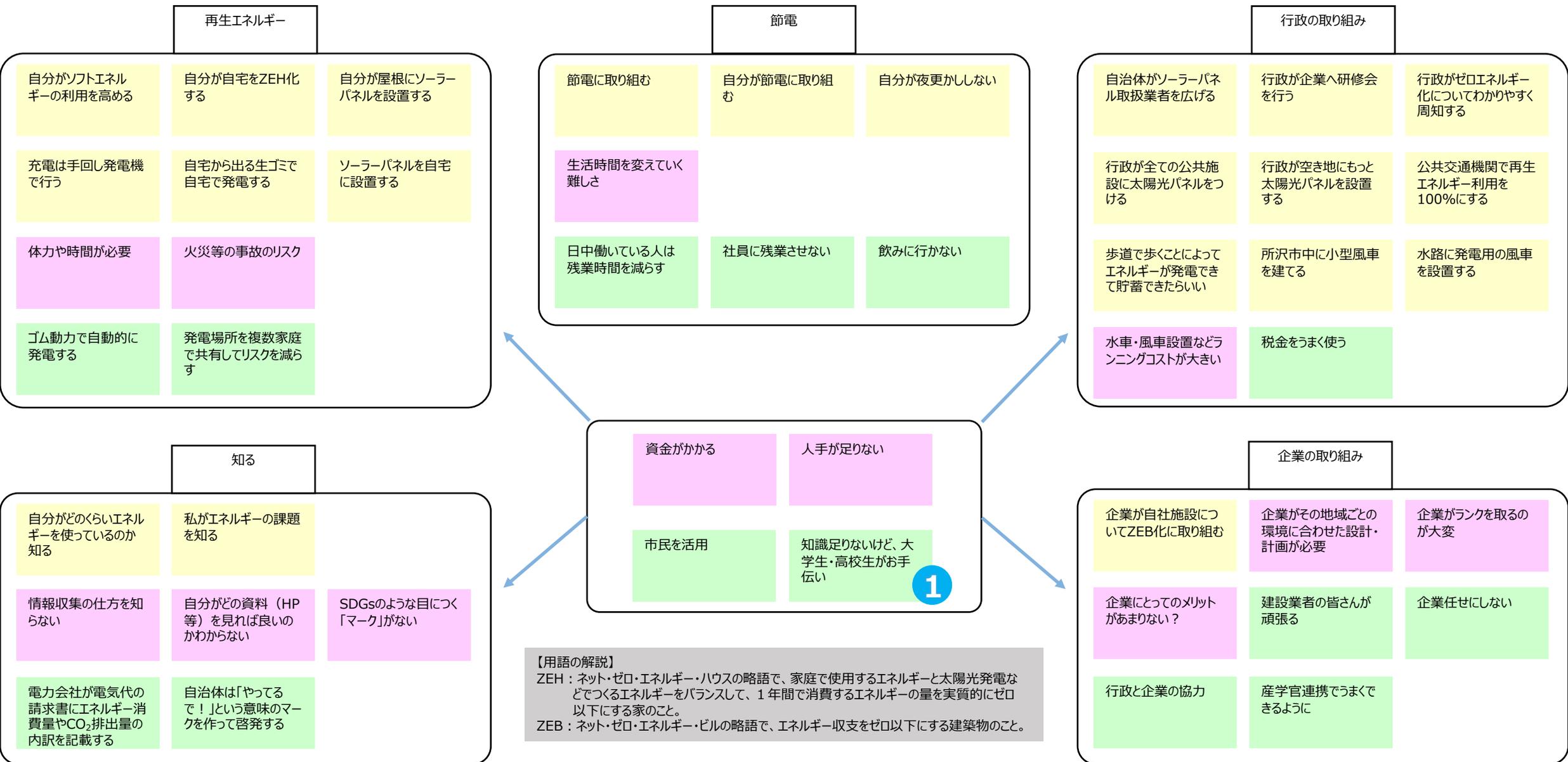


【用語の解説】
RE100：事業の使用電力を100%再エネで賄うことを目指す国際的なイニシアティブのこと。国内外の企業が参加している。

マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

グループ3



マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

グループ4

節エネ

自分が車を使わず、歩いて買い物に行く

自分がフードロスゼロに取り組んだ方が良い

自分が長く使える洋服を買う

農家さんが商品にならないものを安く売る

エネルギー節約に対する意識変化が難しい

節エネに対して、「けち」といったイメージがある

成果が目に見えないと実感しにくい

行動変容が難しい

節エネへのイメージアップを図る工夫をする

協力してくれる人に謝礼（商品券など）を渡して、参加を促す

節電・節水

自分が節電・節水を心がけて生活する

自分が節約生活を送る

自分が電気を無駄にしない

家庭で水の再利用システムを作る

節電・節水によって不便な生活になってしまう

不便な生活に慣れることで、意識が変わる。昔ながらの心豊かな感性に戻る

節エネグラフ（料金表）を付ける

広報

自分が市の取組を広める

自分が情報を取る行動に移す

自治体が再エネ導入のメリット・デメリットを伝える活動をする。
例：ポスティング・メール

ポスティングした案内やメールの未読スルーによって、市民に情報が届きにくい

市民の目に入りやすいように、情報発信の方法を工夫する

メールではなく、地震速報のような通知を携帯の画面に表示する

カッコいい人気俳優を起用したCMを作成して、流す

夏にあった電力ひっ迫といった案内のように、メディアを活用して情報を発信する

1

行政支援

行政（所沢市・埼玉県）が、「太陽光パネル設置法」を出し、義務化する

所沢市や国が、もっと支援の幅を拡大する

行政には、様々な問題を解決するプライオリティがある

すぐに実行に移すのは難しい

CSRとしてエネルギー対策にあたる

再エネ

自分が再エネ電力に切り替える

企業が新しい再エネアイテムを開発する

企業には開発するためのお金が必要

コストダウンが大変

お金に加えて時間もかかり、簡単なことではない

エコ減税を実施する

マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

グループ5



再エネの理解

- 自分が再エネを理解する
- 自分が自身の選択オプションを理解し、それぞれのメリット/デメリットを理解する
- 自分が再エネと火力の違いがわからない
- 再エネについて理解する機会が少ない
- 再エネの良さを考える
- 自身のコミュニティーで発信する、考える

太陽光パネル設置

1

- 自分は家に太陽光パネルを設置することを取り組んだほうが良い
- 設置するための費用の負担が難しい
- 自分の家はマンションなので太陽光パネルの設置を一存でできない
- マンションや会社だと個人の意見で設置するのが難しい
- 金がかかる
- よくないウワサ（悪徳事業者）を聞く
- 行政で補助金を出す [全額]

再エネ機器

- 自分が再エネ機器を導入
- 自分に費用がかかる
- 自宅のゼロミッション化をさらに進める
- 技術革新がリスク
- ※多くの家庭が新しい機器に買い換える。生産と処分による排出量の増加が懸念される。
- （自分が解決方法と思われる対策を）ほぼやりつくした
- 資産価値として採算があわない

再エネPR

- 市が再エネ事業をもっとPRする
- 行政は民間事業者とのパートナーシップを一段と進め、再エネ比率の高い電気の普及に努める
- 市民に興味をもってもらう（ことが難しい）
- 行政・企業の工夫が足りないように見える
- 行政の取組をもっと周知するにはどうすれば良いか
- 市がトコロンと一緒に周知

教育

- 学校で子どもたちにゼロカーボンなどの取組を伝える→家で話すように
- 学校がポスターや作文などを夏休みの宿題にする
- 学校の先生たちの知識不足
- 教育委員会が学校の夏休みの宿題にする

再エネを進める

- 電力会社は再エネ普及を邪魔しない/積極的に進める
- 行政は電力会社に再エネへの取組を加速させる
- 利権が複雑で強いリーダーシップが必要

移動

- 自分が燃費効率の高い車に乗り換える
- EVは不便すぎる
- ※充電に時間がかかる
- 乗りたい車が少ない

行政での導入

所沢市で再生可能エネルギーの導入に取り組んだ方が良い

再エネの選択

- 自分が再エネ%の高い電力を選択する
- 会社が太陽光発電を利用する
- 料金が高くなる気がする（知識が不足）

補助金・法

- 埼玉県も（が）太陽光パネルの設置を義務づける（東京都は来年から）
- 住宅への式投資が増える

使う側の意識

- 自分がゴミを減らすよう努力する
- 再エネで作られた電力を使う側も意識する
- 自分が仕事部屋の暖房を灯油ストーブ（化石燃料）からエアコンに切り替える

再エネ応援

- 自分が再エネを多く活用している企業を応援する
- 自分ではどの企業が再エネを多く活用しているか調べられない
- （応援したい）会社が太陽光パネルを設置する場所がない

マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

グループ6



自分が知る

1

広める

家でできること

遊休地の活用

自分の生活の中で省エネになることを考える

自分がエネルギーのことをもっと知る

知る方法がわからない。ネット？新聞？テレビ？

自分がエネルギーのことにもっと興味を持つ（電気自動車にシフトなど）

自分で、再エネを活用している施設を調べる、利用する！

行政などがインターネットや動画で、情報発信をする

※NHKプラスやYouTube等

自分が地域の活動をよく知る

自分の場合、なんとなく選ぶことが多い

（自分）発電量の具体的なイメージを知る

自分の場合、知る機会があまり無さそう…

もっと身近な自治会単位で省エネのことを学ぶ機会をつくる

自分が、家の（自分の）エネルギーについて改めて確認する

身近で再エネに触れる機会を増やすため、利用者の多い施設・遊び場等に再エネを導入する

自分がまずは家族と電力（エネルギー）について確認する

小・中学校で再エネについての話を聞く機会を設け子ども達にも将来のことを教えてもらう

自分が、家族とゼロカーボンについて話し合う

電気やガスの購入だけに頼るのは災害時に危険とわかれば、再エネ設備の導入も自分ごとになる

自分が、身近な人に未来電力の魅力を広める

例えば、スマホの充電などできないと考えると

自分の場合、人にすすめるほど知識を持っているのが心配…

小学校で、子ども向けに学ぶ機会を設ける

※交通安全教室と同じレベルでやる

自分が、日常の会話や生活の中で話題にすることは難しい…

自分で出来ること（費用面）から省エネを実践する（LED、家電の買い替えなど）

自分の場合は、コストがかかる？いや（有利、不利）

再エネ設備（ソーラーパネルなど）の導入は費用面で補助がないと実施が難しい

再エネ設備（ソーラー）導入に対して5年で導入費用が回収できるレベルの補助金制度がほしい

自分の家の中の設備として、ゼロカーボンに向けてできることは何かを知る

企業を応援する

集合住宅

再エネ化を事業としている企業を応援する（投資）

再エネを事業としている企業の応援に優遇処置（コスト面で）が必要

再エネ事業に取り組んでいる企業の株式購入に一定の補助金を導入してほしい

再エネを利用している施設が自分の希望に沿ったことを提供してくれる…？

配当に税金の控除などの優遇措置もあればよい

アパート、シェアハウス等でパネル設置

再エネは、発電効率に疑問がある

トラブル（故障など）のとき、自分も周りも大変

マンションの組合が、出来ることを総会の議題としてあげる

集合住宅は、管理会社との規約がありネックになる

自治会やマンションの成功事例を発信してほしい

（市・民間など）遊休地の活用をさらに

空き家問題などは、権利関係が複雑

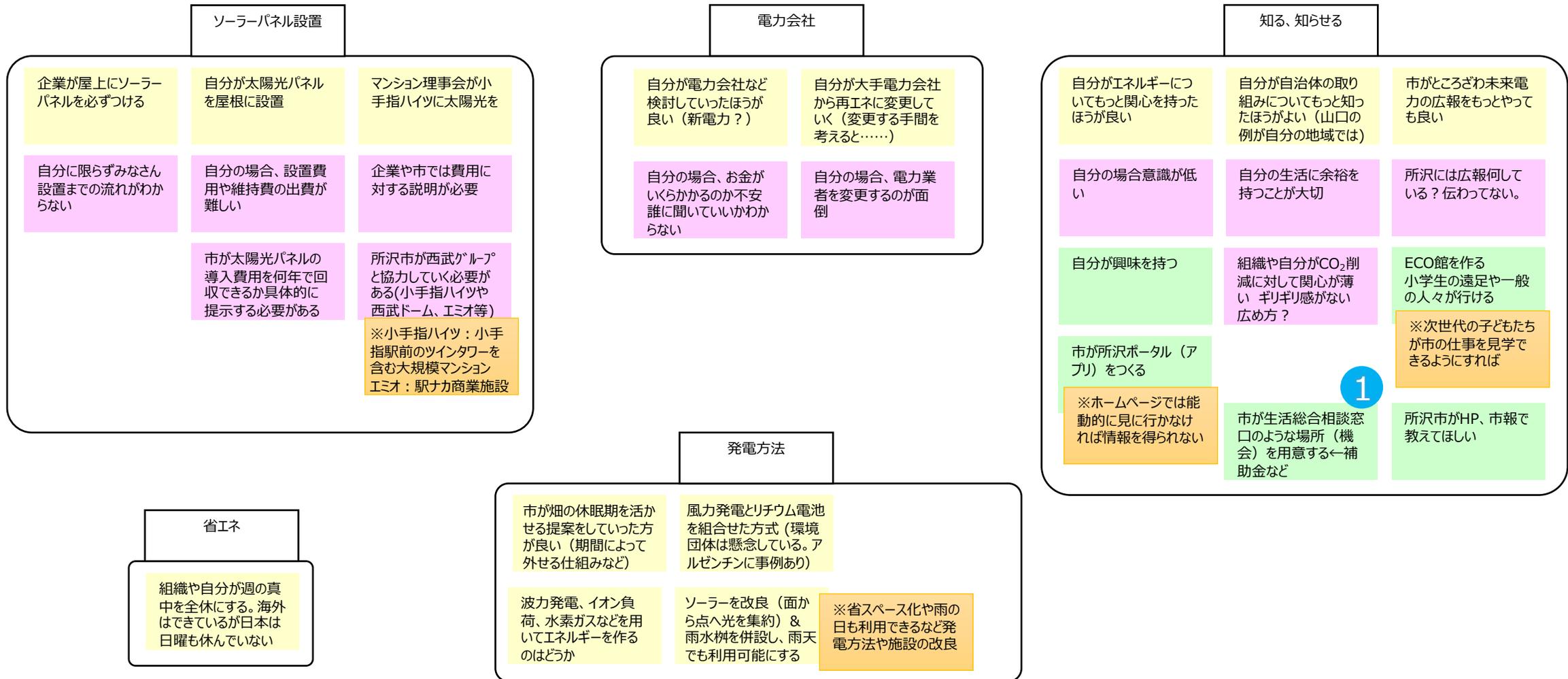
遊休地を再エネのために活用する場合、市や民間から土地権利者へ何かメリットを設けてほしい

費用の回収に時間がかかる

マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

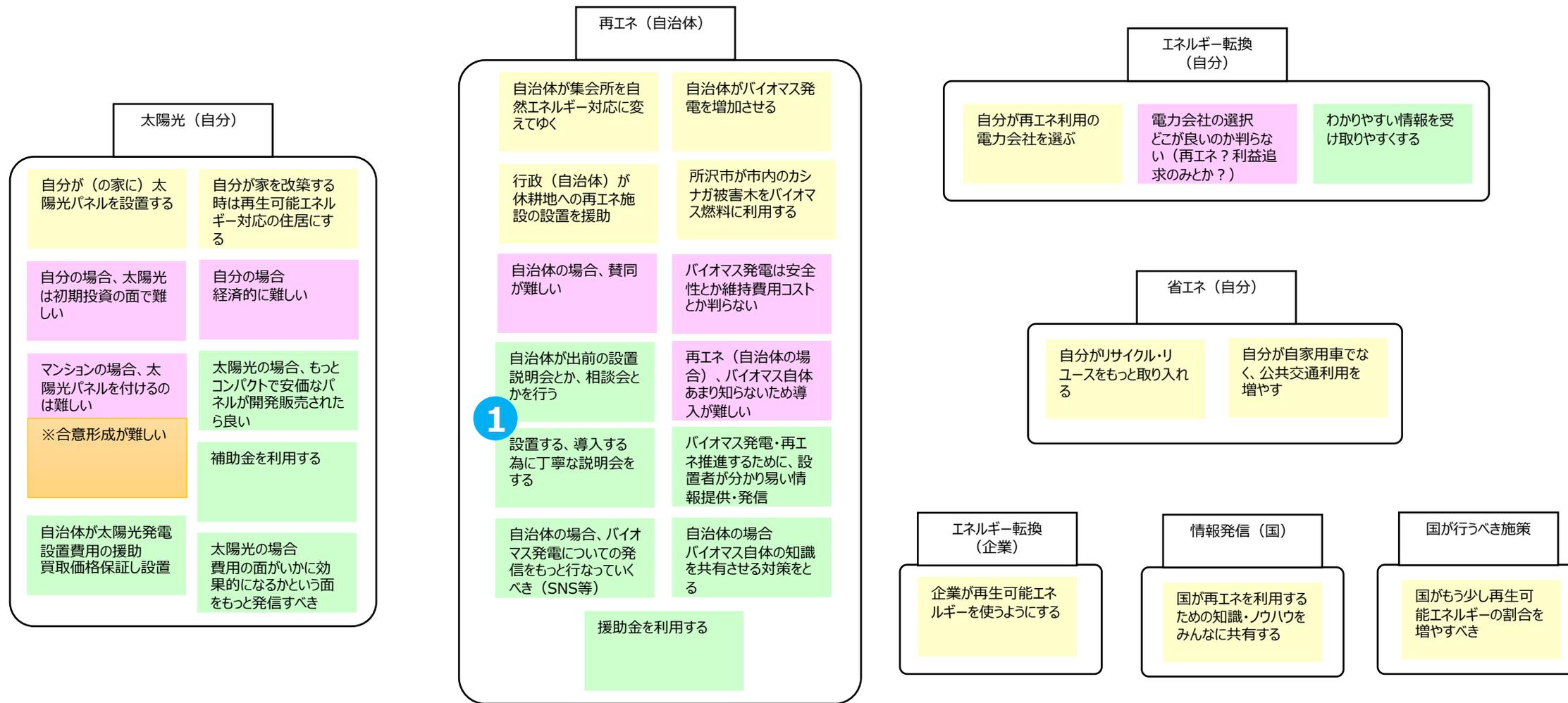
グループ7



マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）

テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

グループ8



【用語の解説】
 カシナガ被害：カシナガキクイムシが媒介するナラ菌によって、ナラやカシなどの樹木が枯れる被害のこと（「ナラ枯れ」として知られる）。